

## 医学部・医科大学の医学科における 入試のあり方に関する調査研究

林 篤裕\*  
石井 秀宗\*  
伊藤 圭\*  
椎名久美子\*\*  
岩坪 秀一\*  
柳井 晴夫\*

### 要 約

今回、我々は医学部教育のあり方とその入り口である入試、および、メディカルスクール構想について、全国80の国公私立大学の医学部教員を対象とした全国調査を行なった。その結果、教員の専門分野によって、求める学生像や入試に対する考え方が異なっていることが判った。また、優れた医師に求められる能力・資質についての解析結果では、必要性の高い24の能力と、専門分野によって必要性に違いの見られる12の能力が明らかになった。

医学教育において大きな変化となり得るメディカルスクール構想については広く知られているが、今回の調査でも6割の教員が何らかの形でメディカルスクールの実現を希望しているという結果であった。また、年齢層別では高年輩層が特に導入に積極的であり、学士編入学に否定的な教員でもメディカルスクールには肯定的な反応を示すのも特徴的であった。

メディカルスクールおよび学士入学を含めた医学部に必要な入試科目としては、「国語、数学、英語」を中心にいわゆる「重量型」と言われる多くの科目を課す試験を希望し、学科目試験以外では「面接、小論文」が筆頭に挙っている。「日本語のコミュニケーション能力や文章力を測るための試験」に対してはどの入り口用試験としても4割近くの教員が必要性を指摘している。一方、米国のMCATのようなスキルアナリシスタイプの総合学力試験の必要性を認めた教員は3割弱に留まっていた。

今後は、今回把握した医学教育を取り巻く状況とニーズに照らし合わせて、「学士入学」に対する入学試験を検討しようと考えており、その一環としてモニター調査も計画している。その際には、従来型の学科目試験のみならず、コミュニケーション能力・読解力・表現力や情報把握力・論理的思考力を測定する総合試験も含めて検討対象とする。

キーワード：メディカルスクール，コミュニケーション能力，総合的学力，スキルア  
ナリシス，MCAT，面接，小論文

\* 大学入試センター 研究開発部 試験臨床研究部門

\*\* 大学入試センター 研究開発部 適性試験研究部門

〒153-8501 東京都目黒区駒場2丁目19番23号 電子メール：hayashi@rd.dnc.ac.jp

2004年11月19日 受理

## 1 はじめに

近年、「高校時代に生物を履修していない医学部入学者」や「コミュニケーション能力の欠如した医学部生」、「医の倫理」等、医学教育や医学部入試に関する議論が広く行なわれている。本稿ではこの現状に鑑み、医学部入試のあり方に関する問題点を (i) 良医に望まれる資質・能力、(ii) 医学部への3つの入学形態、(iii) 医学部における入試科目、に分類し、医学部入試の改善に資する提言を行なうために、全国の医学部教員を対象とした調査研究を実施した。そこで、まず上記3つの問題点を順に言及する。

### 1.1 良医に望まれる資質・能力

医学教育の主要な目的の一つに、「優れた医師を育成すること」が挙げられる(中川(1977))。1971年に実施されたプライスの調査報告(Price(1971))によると、優れた医師の資質として、最も重要と思われた上位5項目は以下の通りであった。

- 1) 患者を徹底的に調べる知識と能力
- 2) 自分が専門とする医学の領域における最新の知識を取得すること
- 3) 問題の核心を賢明に思慮深く把握する能力
- 4) 良い臨床的判断力(患者の診断について適切な決断に達することができる)
- 5) それが、患者のためになるなら、他医にすぐに紹介すること

また、どのような能力・資質を保有している学生が医学部生として望ましいかという医学部進学学生の適性に関する研究としては、米国医科大学協会(Association of American Medical College(AAMC))が1984年に出版したGREPレポート(AAMC(ed.))が好例であろう。本レポートに依れば、医師は「広範なそして厳格な教育」を受けるべきであることが明記されており、そのために、メディカルスクール(Medical School)において学生が「自然科学のみならず社会科学、人文科学の知識」および「患者についての情報を患者から収集する技術」等を獲得できるような職業教育を行なうことの必要性が説かれている。このレポートはその後長きにわたって米国のメディカルスクールの指針として利用され、現在では志願者と入学者

に対する文書「入学と卒業の技術標準(Technical Standards for Admission and Graduation)」の中に、観察能力、コミュニケーション能力、統合的能力、数量的能力、そして、態度・行動・人間関係・感情の属性、といった能力・資質を期待すると記されている(Sabalís, 椎名他(2004)参照)。

上記に示したものは米国のメディカルスクール入学者に期待される能力・資質であったが、これらがそのまま日本の医学部入学者にも当てはまるのであろうか。この種の研究の1つに、医学部入学後の適応状態と学習意欲との関連を分析した「大学の各専門分野において必要とされる資質に関する調査研究(柳井・前川他(1993))」がある。この中では、大学の専門分野で学ぶ学生が効率的に学習していくために必要とされる能力・資質として27の項目が抽出されており、医学部に関しては、学部に適応した者と不適応であった者の間で顕著な差のみられる資質として、「人間心理への関心」、「生物への関心」、「自己表現力」、「探究心」および「協調性」が挙げられている。同様の27の項目について1994年に宮崎医科大学の入試多様化前後の学生について調査したものがあり、小論文、調査書を重視した多様化入試によって入学した学生は、多様化前の入試によって合格した学生に比べ、「探究心」、「生物への関心」、「人間心理への関心」などの資質を強く有していることが判明した(豊田他(1994))。さらに、同じ27の項目を用いて、2001年に全国の大学生約30,000人に調査した結果によると、「生物の仕組みや生態に関心がある」および「共感する」と回答した医学部学生は、そうでない学生に比べ、医学部により適応している傾向が認められた(石井・椎名・柳井(2003a,b))。以上示した3つの調査結果はいずれも学生の自己評価であり、教育する立場として学生に接する機会が多い教員が、どのような資質を学生に望んでいるかは明確ではない。また、「良い医師に望まれる能力・資質」や「よい医師を社会に輩出するための医学教育」に関する全国調査としては「平成15年度医学教育カリキュラムの現状(全国医学部長病院長会議(2003))」があるが、これは医学部長のみを対象としたものであり、医学教育を担当している幅広い分野の教員を対象に実施された調査報告は見当たらない。

そこで、本研究においては、上記3つの調査研究

で実施された、大学の各分野の学習を効果的に行なうために必要とされる27の資質に加えて、2002年の学生調査において実施されたオーストラリアのクイーンズランド州の後期中等教育カリキュラムにおける49の共通カリキュラム要素のうちから20の項目を選定した。これら合計47の項目を用いて、医科大学・医学部に勤務する講師以上の教員に対し、良い医師になるためにそれぞれの資質を保有していることがどの程度望まれるかについて調査を試みることにする。

### 1.2 医学部への3つの入学形態

医師に求められる能力を習得させるための医学教育制度についてみてみると、教養教育とその後続く基礎医学、臨床医学（臨床実習を含む）を含めて計6年間で実施される点は、世界各国において共通であるが、入学者選抜方式は国によって異なっている。米国のメディカルスクールは、高校卒業後に4年制大学の学部を卒業してから進学するもので、MCAT（Medical College Admission Test）とよばれる試験（言語推論力、物理科学、生物科学、作文からなる）の成績、および大学時代の総合成績（GPA）によって合否の判定がなされる方式が古くから採られてきた（石岡（2003））。また、アメリカなどと同様にメディカルスクール方式で医学教育の行なわれるオーストラリアでは、GAMSAT（Graduate Australian Medical Admission Test）（ACER（2003））と呼ばれる総合的試験等で合否を決めている（Kachur 他（2001）、石井 他（2004））。この他、韓国においても、2005年からMEET（Medical Educational Eligibility Test）という総合的試験の導入により、いくつかの医科大学では、学部卒業者のみを受験させるように準備を進めているとのことである（Lee（2003））。一方、我が国における医学教育制度は高校卒業後の医学部入学がメインであり、大学の学部卒業者に対しては、学士編入学という形式で受け入れてはいるもののその定員は僅少で、また、メディカルスクール制については現在導入が議論されている段階である。

そこでこのような状況に鑑み、我々は今後の我が国の医学部入試のあり方について、入学形態という観点から考察を試みることにした。つまり、a) 高校卒業後の医学部入学、b) 学部卒業後の学

士編入学、およびc) 今後導入が検討されているメディカルスクール入学の、それぞれの入学形態を採用することについては是非、そして、メディカルスクールが我が国において導入された場合、現在実施されている法科大学適性試験のような共通試験が必要かなどについて教員の意識を調べる質問項目を用意する。

### 1.3 医学部における入試科目

ところで、大学入試データの解析研究にもっとも早くから取り組んできた学部の一つが医学部である。医学教育学会は1969年に設立され、1977年には学会誌「医学教育」において、「医学校における入学者選抜と改善の方向」という特集を組み、全部で17の論文が掲載されている。その一つに、東邦大学医学部が1968、1969年の入学者に対して行なった追跡調査の報告（額田・高垣（1977））がある。この報告によると、医師国家試験の合格者と不合格を判別する要因として、浪人経験の有無、高校成績、および数学の入試成績を挙げている。1980年以降では、群馬大学医学部、浜松医科大学、高知医科大学（当時）、福岡大学医学部、山梨医科大学（当時）、愛媛大学医学部の報告等がある。

鈴木他（1988）による群馬大学医学部の研究報告によると、医学進学課程に順調に進学できなかった学生は共通第1次学力試験（当時）の英語の成績が悪く、教養課程における独語の成績が悪い傾向が示唆されたが、医師国家試験との関連は分析していない。また、椎名他（1997）による福岡大学医学部入試データの分析的研究報告によると、医師国家試験最短合格率にもっとも関連のある科目は、英語の成績、続いて理科（物理、化学、生物の内の2科目）の成績で、数学の成績は全く関連しなかったという結果が得られている。この他、総合試験成績と入学後の成績の関連を分析した高知医科大学の研究（岩堀・上田（1999））や、高校調査書と医師国家試験成績の関連、および推薦入試の評価を行なった山梨医科大学の研究（平野・渋谷（1996）、平野他（1997））、小論文を課した入試の成果について研究した愛媛大学医学部の報告（植田他（1996））等がある。また、入試成績と入学後の成績とだけでなく、卒業後の医師（または医学研究者）としての活動状況との関連を調べた浜松医科大学の研究報告（坂口（1992））は興味深い。し

かし、報告されている入試成績と入学後の成績の相関を概して低い。これは、いわゆる合格者のみによって入試成績と入学後の成績の相関を求めるために生じる切断効果 (truncation effect) によるところが大きい。

以上述べたように、医学部入試成績と入学後の成績を求めた研究は多数みられるが、入学試験の妥当性を見る基準変数としては、医学部専門課程の成績、国家試験最短合格率、医学部卒業後の活動など多様で、それぞれの研究報告の比較は困難である。

また、特定の教科科目にとらわれずに、教科の壁を越えた試験として総合試験がある。この形式の試験を採用しているのは日本では医学部や教員養成系学部、それに理学部に多いことが我々の今までの調査で判っている (椎名他 (1998), 柳井他 (2002))。なお、総合試験の定義や諸外国における大学入学者選抜方法としての総合試験の利用状況については、藤井他 (2002) を参照してほしい。ちなみに、前節で挙げた MCAT, GAMSAT, および MEET といった学士対象の入学試験も総合試験に属する。

こういった先行研究の現状に鑑み、本研究においては、入学試験の教科科目の妥当性を検討するのではなく、大学教員がそれぞれの入試科目についてどのように考えているかをアンケート調査によって評定してもらうこととする。

#### 1.4 調査内容

前節で述べたように、高校卒業後の医学部入学、学士編入学、そして、メディカルスクールへの入学形態のそれぞれにおいて、センター試験や個別学力試験の教科科目試験のみならず、総合試験を含めた種々の入試方式のいずれが志願者を測定する方法として現場の教員の要望にそったものなのかを検討する。また、「優れた医師に求められる能力・資質」については個々の教員によって捉え方が異なると思われるので、その捉え方と教員の専攻分野の関係についても明らかにし、前項も含めて入学者選抜の指針を示そうと考えた。この目的のために、本論文の著者 6 名に、関西医科大学、東京医科歯科大学、高知大学、茨城大学、山口大学、聖マリアンナ医科大学、富山医科薬科大学それぞれに勤務する 7 名を分担者に加えた研究チー

ムを編成した。このグループで検討の末、上述の事柄が把握できるように次の 5 つの部分からなる調査票を作成し、これを全国の大学の医学教育に携わっている教員に送付し調査を実施した。

Part A: 優れた医師に求められる能力・資質について

Part B: 高校卒業後の医学部入学における入試方策について

Part C: 学士編入学における入試方策について

Part D: メディカルスクール制の是非と入学方策について

Part Z: フェイスシート等

次章以降、上記の目的を達成するための調査項目の選定、調査対象の選定等についての研究計画、調査データの分析結果、その解釈、および今後の指針を示す。

## 2 研究計画

### 2.1 調査票の作成

研究チームで検討の結果、今回の目的のために以下の 5 つの部分 (Part A, B, C, D, Z) から成る調査項目を作成した。なお、調査票は付録 A1 に収録したのでそちらも参照されたい。

#### (1) Part A: 優れた医師に求められる能力・資質について

能力・資質に関する 47 項目の設問について、その必要性を 4 段階で評定させた。これらのうち、27 項目は柳井・前川他 (1993) の研究で得られた大学教育で必要とされる資質項目である。また、17 項目は、オーストラリア・クイーンズランド州の後期中等教育カリキュラムにおける 49 の共通カリキュラム要素 (山村 (2002)) に含まれる項目の中から取り出したもので、これらは既に荒井 (2000) および、柳井他 (2003) による調査で使用された項目である。残りの 3 項目、すなわち「価値を一つの物差しでなく、いくつかの物差しで判断すること (多元的な価値判断)」、「人とのコミュニケーションが円滑にできること (コミュニケーション)」、「いろいろなことに興味・関心を持ち、積極的に行動すること」は、著者および医科系の大学・学部にも所属する分担者による研究チームにおいて考案されたものである。特に、コミュニケーション能

力に関しては、先に示した米国のMCATに含まれている項目であるばかりでなく、米国の各メディカルスクールが求めているスキルでもある。

#### (2) Part B: 高校卒業後の医学部入学における入試方針について

センター試験で受験すべき科目と、各大学の個別学力試験で受験すべき科目について別々に評定させた。理科と社会科については、科目数での指定も想定に入れた。教科科目以外に、「面接」、「小論文」、「総合試験」、「適性試験」、「コミュニケーション能力・文章力を測る試験」といった設問を加えた。

#### (3) Part C: 学士編入学における入試方針について

学士編入学の是非、入学定員、編入年次、どの学部出身者が望ましいか等を聴取した。さらに、学士編入学において課すべき教科科目等については、高校で学ぶべき科目別試験と大学で学ぶべき科目別試験に分けて評定させた。また、Part Bと同様に「面接」、「小論文」、「総合試験」、「適性試験」、「コミュニケーション能力・文章力を測る試験」といった設問を加えた。大学に再入学することになるので、「大学卒業後の経歴と医学部への学士入学の動機を記した作文」といった項目も付加した。

#### (4) Part D: メディカルスクール制の是非と入学方針について

メディカルスクール制の是非、どの学部出身者が適しているか、また、米国MCATのような全国共通試験の必要性等を評定させた。メディカルスクールへの入学において課すべき教科科目等はPart Cと同様である。加えて、全国共通試験の必要性についての設問も加えた。

#### (5) Part Z: フェイスシート等：

回答者の属性を把握するために、性別、年齢区分、所属大学種別（設置形態別）、専門分野（大分類と科学研究費細目による小分類）を設問として用意した。

### 2.2 調査対象の選定と調査票の発送・回収

調査対象者は「医育機関名簿 2003～04、羊土社」に掲載されている全国80の国公立大学の医学部、医科大学の医学科（医学部保健学科・看護学科は除く）に所属する教授・助教授・講師、約12,000名（2003年5月1日現在の在籍者数）で

あった。これには、それぞれの大学の医学部に属する研究施設や、当該大学が運営する病院に所属する教員も含まれる。各個人の名前を表書きした封筒に調査冊子と返送用封筒を入れ、施設ごとを一括して、医学部長、医学研究科長、研究施設長、もしくは病院長宛に郵送した（2004年2月下旬）。調査票の配布は送付先の医学部、研究施設、病院に一任し、調査票の回収は、教員個人が返送用封筒を用いて直接郵送することとした。調査回収期間は2004年3月～6月の4ヶ月間であった。この間、3,993通が回収された（回収率3割強）。回収された調査票は業者委託で電子化され、不明確な回答は個票に戻って整合性を保つようにスクリーニングをかけた。

## 3 分析結果及び考察

回収され、スクリーニング処理を施した3,993名分のデータを元に解析を行った。以下順にその解析結果と考察をまとめる。

### 3.1 選択肢項目の集計

それぞれの質問項目に対して、どのような割合で回答があったかを把握するために、まず選択肢項目の単純集計を調査票と共に付録に示した。選択肢の横に記されている数字は、全回収数（3,993名）に対する選択率（%）である。ただし、質問項目Z5（細分化された専門分野）だけは選択肢が多いため、個々の選択肢のマーク数が少なく、割合で示すと小さくなり過ぎるので、ここだけはマークされた実数を記してある。

### 3.2 自由記述項目の集計

調査票には自由記述項目もあり基礎集計としてその記入率（%）を表1及び付録に示した。何らかの意見が記入されていればカウントし、「なし」等の記述は「無記入」または「無回答」と解釈して、意見が記入されている率を計算した。ただし、本報告では、自由記述項目は取り扱っていない。

### 3.3 回答者集団の特性

解析をはじめると、まず回答者の属性特性を明らかにしておく必要がある。今回アンケートを提出した集団の専門分野がどのような傾向を

表 1 自由記述項目とその記述率

| 番号  | 質問項目  | 記入率(%)  |
|-----|---|---------|
| A2  | 医学部への入学者に期待する資質や性格を、具体的に書いてください。                            | 58.3    |
| C3  | 上記(C2)のようにお答えになった理由をお書き下さい。                                 | 70.3    |
| C8  | 学士編入学者が大学時代に履修することで、その後の専門教育の学習に役立つと思われる教科・科目をお書き下さい。       | 53.5    |
| C9  | 学士編入学してくる学生にどのような資質を期待しますか。                                 | 58.7    |
| C10 | 学士編入学制度のメリットとデメリットを列挙してください。                                | [メリット]  |
|     |   | [デメリット] |
| D5  | 上記(D4)のようにお答えになった理由をお書きください。                                | 56.7    |
| D6  | メディカルスクール入学者が大学時代に履修することで、その後の専門教育の学習に役立つと思われる教科・科目をお書き下さい。 | 47.7    |
| D7  | メディカルスクールに入学してくる学生にどのような資質を期待しますか。                          | 50.8    |
| D8  | メディカルスクールについて、考えられるメリットとデメリットを列挙してください。                     | [メリット]  |
|     |   | [デメリット] |

表 2 回答者集団の再分類

| 専門分野(Z4)  | 回答割合  | 新しく名付けた専門分野 |
|-----------|-------|-------------|
| 基礎医学      | 22.7% | 基礎系         |
| 境界医学      | 1.4%  |             |
| 社会医学      | 4.7%  |             |
| 臨床医学(内科系) | 33.1% | 臨床系(内科)     |
| 臨床医学(外科系) | 33.9% | 臨床系(外科)     |
| 教養的教育     | 2.3%  | ---         |
| その他       | 1.4%  | ---         |
| 不明        | 0.4%  | ---         |

持っているかを把握するために、専門分野を聴取した質問項目 Z4 (大分類) に注目する。今回の調査は医学を専門にしている教員の動向を知ることが主としているので、「教養的教育」と「その他」、「不明」を除いた5つの項目に注目し、その回答割合を見ると表2のようになる。大きくは基礎系と臨床系に分かれるが、臨床系の中も内科系と外科系に分かれるので、これら3群に再分類してこの後の調査を進めることとした。このように分類するとほぼ三分の一ずつに集団が分かれる点でも好都合である。

### 3.4 優れた医師に求められる能力・資質について

Part A では、優れた医師を育成するために、入学試験時に測定することが求められると考えられる資質について質問しており、回答者には47の資質について、測る必要性を「高/中/低/無」の4段階で評定してもらった。それぞれの資質について「必要性が高い」と回答された割合が40%を越える資質は24あり、選択割合の高い順に表3の通りであった。また、選択率が40%に達しないものの専門分野の違いによって、選択率が異なる資質

は専門分野の特徴を示していると考えられる。専門分野間で5ポイント以上異なる資質が上記以外に12あった。

教員に必要性が高いと判断された資質は勿論だが、専門分野によって特徴的な資質についてもその動向を把握することは、医学部における教育や入試を考える場合、注目すべき能力・資質と言えるであろう。そこで、これら36の資質について基礎系と臨床系の選択率の差が大きいものから順に左側に基礎系が高くなるように並べた(図1)。基礎系の教員の選択率が臨床系より10ポイント以上高い資質が7つもあるのに対して、臨床系の方が高い資質は3つしかないことが判る(表4, 5)。

### 3.5 学士編入学について

Part C には学士編入学についての質問項目が並んでおり、これら項目と専門分野ごとの傾向をクロス集計で見してみる。いずれの専門分野でも学士編入学に「賛成」が6割強と一番多い(図2)が、その中でも基礎系の教員が学士編入学に相対的に積極的であり、また、受け入れ定員についても臨床系が「若干名」という回答が多いのに対して、基礎系は「10分の1程度」という回答が多く積極的な意識を持っていることが判る(図3)。また、編入年次については基礎系より臨床系が後年次を希望しているが、臨床系の中でも外科がよりその傾向が顕著なことが判る(図4)。これらは入学後のカリキュラム編成と関係があるのかもしれない。

また、大学の設置形態と学士編入学の関係で見ると、いずれの設置形態でも6割程度が学士編入学に「賛成」としており一番多いが、その中でも私立大学が受け入れに積極的であり(図5)、入学定

表 3 医学教育を考える上で注目すべき能力・資質

|                                     |               |              |              |
|-------------------------------------|---------------|--------------|--------------|
| ・「必要性が高い」と回答された割合が 40% を越える資質(24個)  |               |              |              |
| 06.自己表現力,                           | 41.コミュニケーション, | 01.読解力,      | 21.論理的思考力,   |
| 18.客観的評価,                           | 43.人間性・良識,    | 20.多面的な価値判断, | 40.協調性,      |
| 05.文章表現力,                           | 19.結論の導出,     | 42.共感すること,   | 22.判断力,      |
| 02.文章要約,                            | 17.情報整理,      | 45.謙虚・真面目,   | 44.福祉的態度,    |
| 46.持続力,                             | 26.発想力,       | 07.プレゼン,     | 33.生物への関心,   |
| 27.探究心,                             | 32.人間心理への関心,  | 11.図表の読み,    | 23.根拠ある批判,   |
| ・専門分野の違いによって、選択率が 5ポイント以上異なる資質(12個) |               |              |              |
| 14.データの記録,                          | 25.仮説生成,      | 28.社会問題への関心, | 29.自然環境への関心, |
| 39.興味・関心,                           | 47.生活の規則性,    | 16.機械技術,     | 12.図表作成,     |
| 09.数量的予測,                           | 10.公式使用,      | 08.数理能力,     | 13.スケッチ      |

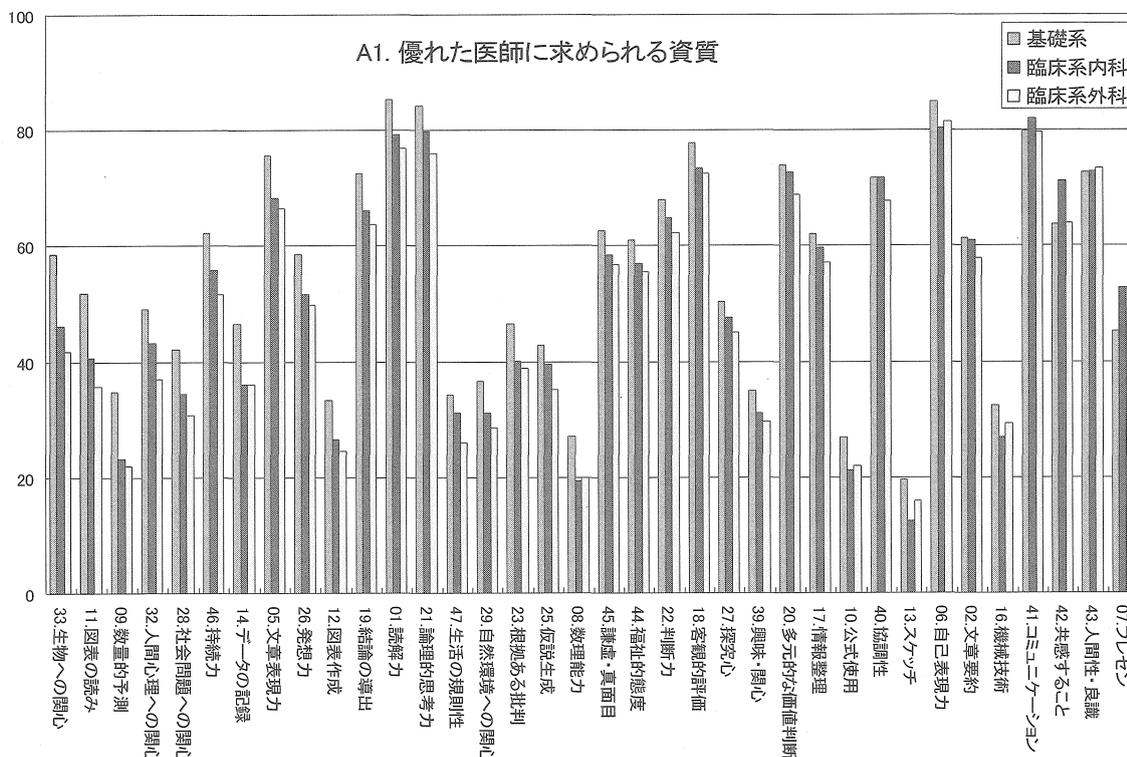


図 1 医学教育を考える上で注目すべき能力・資質 (基礎系が高いもの順)

表 4 基礎系が臨床系より 10ポイント以上高く回答した資質 (7個)

|              |           |           |              |
|--------------|-----------|-----------|--------------|
| 33.生物への関心,   | 11.図表の読み, | 09.数量的予測, | 32.人間心理への関心, |
| 28.社会問題への関心, | 46.持続力,   | 14.データの記録 |              |

表 5 臨床系が基礎系より高く回答した資質 (3個)

|          |            |           |
|----------|------------|-----------|
| 07.プレゼン, | 43.人間性・良識, | 42.共感すること |
|----------|------------|-----------|

員についても私立大学の方が多めの人数を希望する傾向にある (図 6)。年齢層別の傾向をみると、どの年齢層でも「賛成」が3分の2程度あるものの、年配層がはっきりとした意見を持っている割合が高いのに対して、若年層は賛成の比率が高い

もののまだ態度を決めかねている割合もやや多くみられる (図 7)。

ただ、学士編入学に「賛成」の教員でも、その入学定員の割合については意見が分かれており (図 8)、入学定員に対してどのぐらいの割合を編入学の学

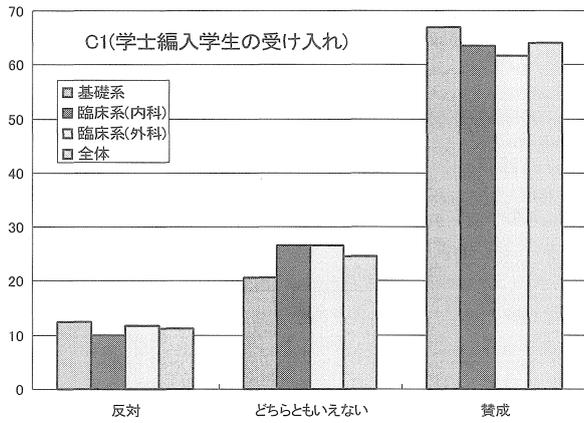


図2 学士編入学に対する意識 (専門分野別)

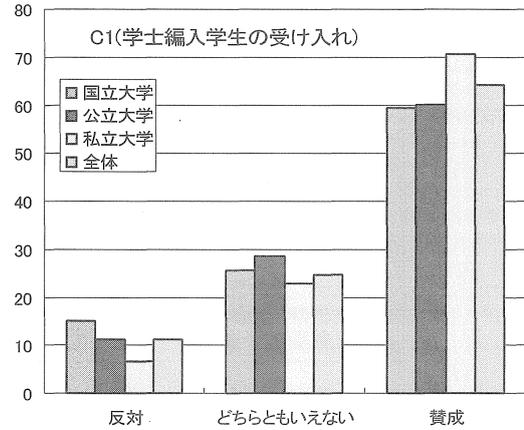


図5 学士編入学に対する意識 (大学の設置形態別)

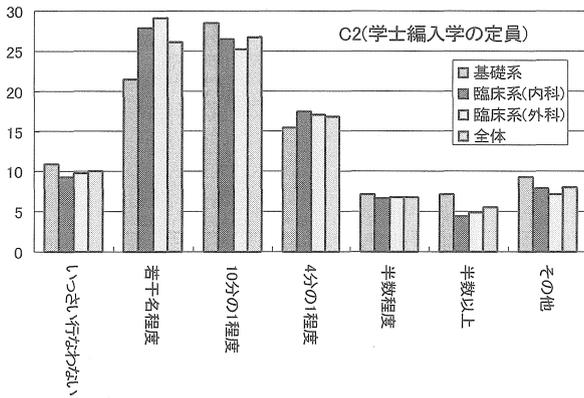


図3 学士編入学の定員 (専門分野別)

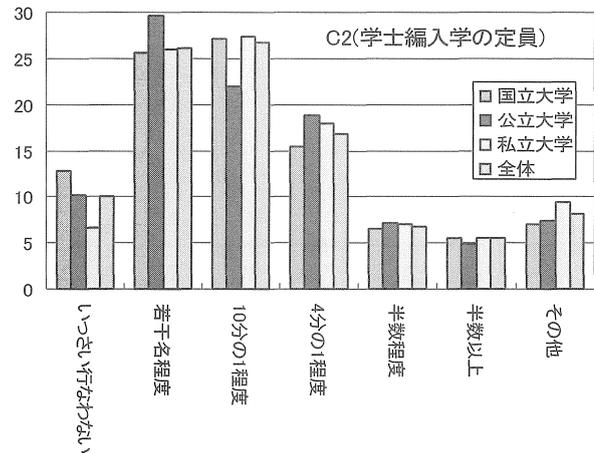


図6 学士編入学の定員 (大学の設置形態別)

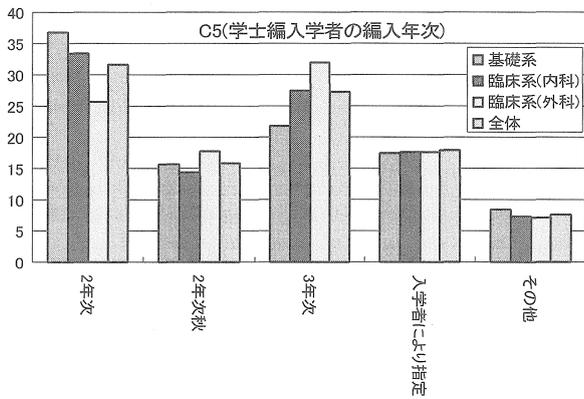


図4 学士編入学の編入年次 (専門分野別)

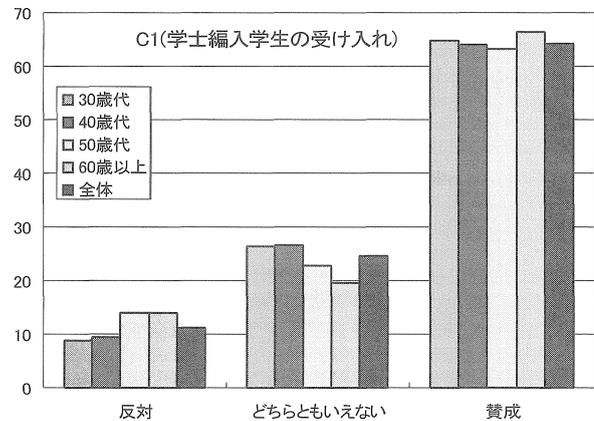


図7 学士編入学に対する意識 (年齢層別)

生に割り当てればよいかという共通的な意見はないようである。

### 3.6 メディカルスクール構想について

Part D にはメディカルスクール構想についての質問項目が並んでおり、これら項目と専門分野ごとの傾向をクロス集計で見てみる。いずれの専門

分野でも「全面的にメディカルスクール構想に変更すべき」と考える教員が多いものの、集中しているわけではなく、他の選択肢にも意見が分散している(図9)。ただ、メディカルスクール構想に積極的な回答は基礎系に多く、逆に臨床系は現行

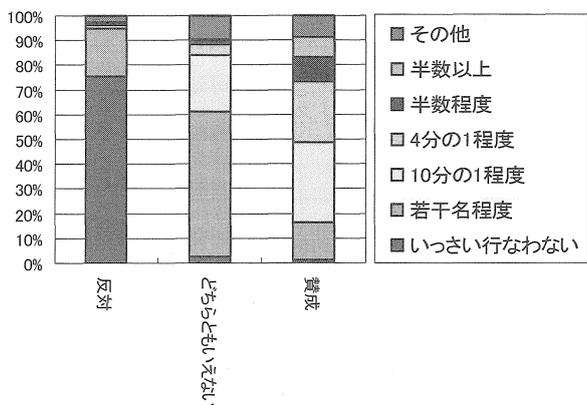


図 8 学士編入学に対する意識と編入学定員の関係

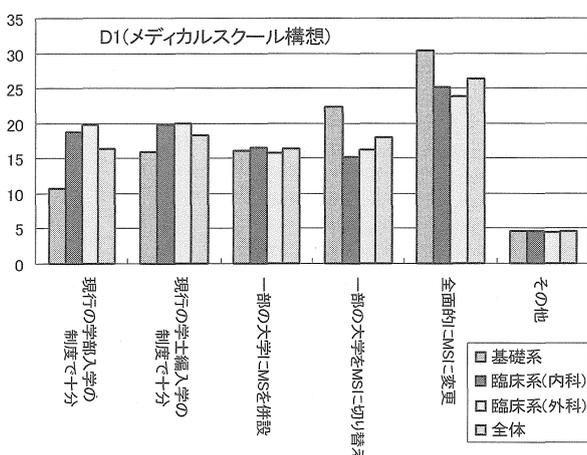


図 9 メディカルスクール構想に対する意識 (専門分野別)

の学部入学や学士編入学で十分と考える現状肯定派が多い。また、年齢層別に見ると、年齢が上がるに従ってメディカルスクール構想に積極的な回答が増え、逆に若年層はどの選択肢にも分散した傾向となっている (図 10)。

大学の設置形態とメディカルスクール構想の関係で見ると、どの設置形態でも「全面的にメディカルスクール構想に変更すべき」という回答が多いものの、圧倒的ではなく、他の選択肢にも意見が分散している (図 11)。ただ、メディカルスクール構想に積極的な回答は私立大学に多く、国公立大学は私立大学と比べて現行の学部入学や学士編入学で十分と考えている割合が高い。

また、メディカルスクールに対する共通試験の必要性については、どの専門分野でも「必要」と考える割合が高いものの、基礎系は「必要ない」と答える割合が臨床系よりも多く共通試験がなくても自分で用意できると考える傾向が強いようであ

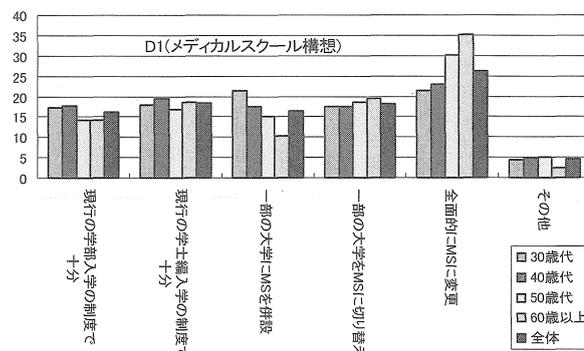


図 10 メディカルスクール構想に対する意識 (年齢層別)

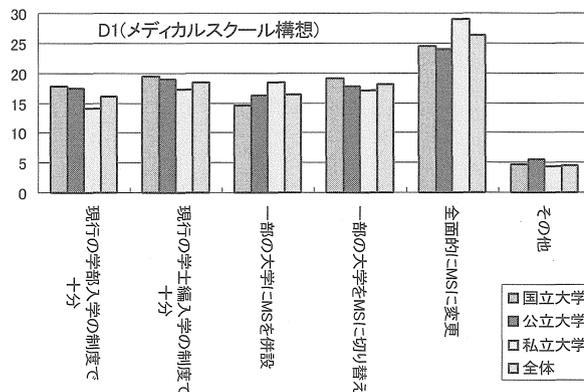


図 11 メディカルスクール構想に対する意識 (大学の設置形態別)

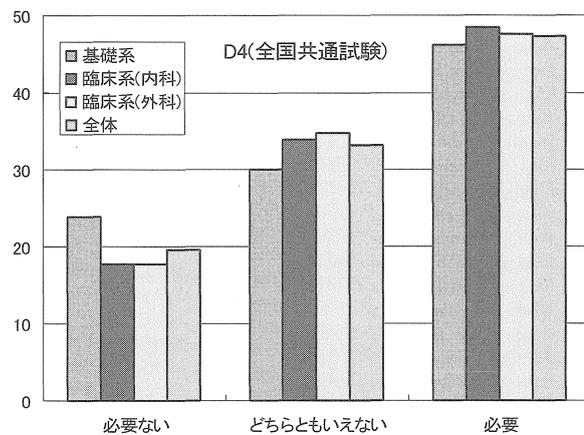


図 12 全国共通試験の必要性 (専門分野別)

る (図 12)。一方、年齢層別の共通試験の必要性をみると、年配層がある程度はっきりとした意見を持っている割合が高いのに対して、若年層はまだ態度を決めかねている割合が多い (図 13)。これは、前節の学士編入学の時にも見られた傾向だが、医学部の運営方策として年輩者が中心となって計画・立案・実施されることが多いことにも起



表 6 高校卒業者に対して要求度の高い入試科目

|                                     |                       |           |          |         |
|-------------------------------------|-----------------------|-----------|----------|---------|
| ・「課すべき」と回答された割合が 40% を越える科目(16科目)   |                       |           |          |         |
| 114=英語,                             | 109=数学,               | 214=英語,   | 101=現代文, | 112=生物, |
| 300=面接,                             | 111=化学,               | 209=数学,   | 212=生物,  | 110=物理, |
| 400=小論文,                            | 211=化学,               | 201=現代文,  |          |         |
| 800=日本語のコミュニケーション能力や文章力を測るための試験,    |                       |           |          |         |
| 210=物理,                             | 500=教科に直接関係しない総合学力試験, |           |          |         |
| ・専門分野の違いによって、選択率が 5ポイント以上異なる科目(3科目) |                       |           |          |         |
| 119=理科4科目から任意の2科目を選択,               |                       |           |          |         |
| 117=社会学6科目から任意の2科目を選択,              |                       | 102=古文・漢文 |          |         |

表 7 学士編入学に対して要求度の高い入試科目

|   |                     |                 |          |         |
|---|---------------------|-----------------|----------|---------|
| ・「課すべき」と回答された割合が 40% を越える科目(15科目)         |                     |                 |          |         |
| 114=英語,                                   | 03=面接,              | 207=大学教養レベルの英語, | 04=小論文,  | 112=生物, |
| 109=数学,                                   | 203=理系一般教養レベルの生命科学, | 111=化学,         | 101=現代文, |         |
| 09=大学卒業後の経歴と医学部への入学動機等を記した作文,             |                     |                 |          |         |
| 205=医学科2年次修了レベルの生命科学,                     |                     |                 |          |         |
| 08=日本語のコミュニケーション能力や文章力を測るための試験,           |                     |                 |          |         |
| 202=理系一般教養レベルの化学, 206=大学教養レベルの数学, 110=物理, |                     |                 |          |         |
| ・専門分野の違いによって、選択率が 5ポイント以上異なる科目(3科目)       |                     |                 |          |         |
| 119=理科4科目から任意の2科目を選択,                     |                     |                 |          |         |
| 204=生物学系学部卒業レベルの生命科学,                     |                     | 107=倫理          |          |         |

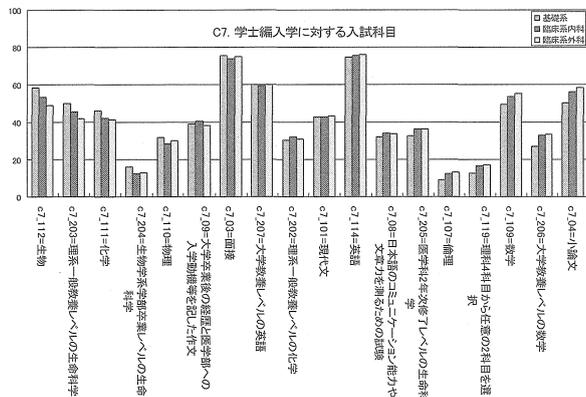


図 17 学士編入学に対して要求度の高い入試科目（基礎系が高いもの順）

### 3.8 入試科目の指定パターンについて

前節では個々の科目の選択率でその要求度を調べたが、ここでは、入試科目としてどのような組合せで課すべきと考えているかを把握するために、出現頻度の高いパターンから順に並べ検討した。その際対象とした科目は前節で挙げた 30%以上の選択率のあった入試科目である。

以下に掲載している入試科目パターンの表の読み方であるが、左側の「指定パターン」の欄は一文字が 1つの科目を示すように略記号を決め、その

組み合わせが列挙されている。当該科目パターンを希望した教員の数が「頻度」の欄に、またその全体に対するパーセンテージが「割合」の欄に掲載されており、その右側には累積頻度と累積割合が示されており、パターン頻度の高いものから順に並んでおり、累積でおおむね 8 割の教員が提示したパターンまでを含むように掲載し、少数パターンは省略してある。科目の略記号を表 8 に示す。

現行の大学入試において、大学入試センター試験に課すべき科目は、全 5 科目、すなわち「国語、数学、物理、化学、英語」を課すべきであると考えられる割合が 38.8% であり、それに続いて、「国語、数学、英語」が 13.0% であった (表 9)。また、個別学力試験では、全 6 科目、すなわち「国語、数学、物理、化学、生物、英語」を課すべきであると考えられる割合が一番多く、「数学、英語」を中心として 2~3 科目を加えて指定したいと考える傾向にある (表 10)。教科科目試験以外では「面接」が一番多く、次に「小論文」を指定したいと考えているようである (表 11)。

一方、入試科目の時と同様に、学士編入学における入試科目の指定パターンとメディカルスクールにおけるそれは同じ傾向にあり、高校で学んで来てほしい教科科目試験では「国語、数学、英語」を中心としており、大学で学んでほしい教科

表 8 略号の示す科目

|       |                               |
|-------|-------------------------------|
| 国：現代文 | 総：教科に直接関係しない総合学力試験            |
| 数：数学  | コ：日本語のコミュニケーション能力や文章力を測るための試験 |
| 物：物理  | 化：理系一般教養レベルの化学                |
| 化：化学  | 生：理系一般教養レベルの生命科学              |
| 生：生物  | 生：医学科2年次修了レベルの生命科学            |
| 英：英語  | 数：大学教養レベルの数学                  |
| 面：面接  | 英：大学教養レベルの英語                  |
| 小：小論文 | 動：大学卒業後の経歴と医学部への入学動機等を記した作文   |

表 9 高校卒業者に対して要求度の高い入試科目パターン  
(大学入試センター試験)

| B1_DNCC | 頻度   | 割合   | 累積<br>頻度 | 累積<br>割合 |
|---------|------|------|----------|----------|
| 指定パターン  |      |      |          |          |
| 国数物化生英  | 1514 | 38.8 | 1514     | 38.8     |
| 国数 英    | 505  | 13.0 | 2019     | 51.8     |
| 国数 化生英  | 427  | 11.0 | 2446     | 62.8     |
| 数物化生英   | 230  | 5.9  | 2676     | 68.7     |
| 国数 生英   | 153  | 3.9  | 2829     | 72.6     |
| 国数物化 英  | 151  | 3.9  | 2980     | 76.4     |
| 数 化生英   | 111  | 2.8  | 3091     | 79.3     |
| 数 英     | 94   | 2.4  | 3185     | 81.7     |
| <<以下略>> |      |      |          |          |

表 10 高校卒業者に対して要求度の高い入試科目パターン  
(個別学力試験)

| B1_KOBC | 頻度  | 割合   | 累積<br>頻度 | 累積<br>割合 |
|---------|-----|------|----------|----------|
| 指定パターン  |     |      |          |          |
| 国数物化生英  | 490 | 13.5 | 490      | 13.5     |
| 数物化生英   | 448 | 12.4 | 938      | 25.9     |
| 数 英     | 428 | 11.8 | 1366     | 37.7     |
| 国数 英    | 375 | 10.4 | 1741     | 48.1     |
| 数 化生英   | 183 | 5.1  | 1924     | 53.1     |
| 国数 化生英  | 173 | 4.8  | 2097     | 57.9     |
| 英       | 170 | 4.7  | 2267     | 62.6     |
| 国 英     | 151 | 4.2  | 2418     | 66.8     |
| 国数 生英   | 108 | 3.0  | 2526     | 69.8     |
| 数 生英    | 105 | 2.9  | 2631     | 72.7     |
| 生英      | 94  | 2.6  | 2725     | 75.3     |
| 化生英     | 92  | 2.5  | 2817     | 77.8     |
| 国 化生英   | 92  | 2.5  | 2909     | 80.4     |
| <<以下略>> |     |      |          |          |

科目試験は「生物，英語」であり，教科科目試験以外では「面接，小論文」を希望する傾向にある(表 12, 13, 14)。

これらをまとめると，教科科目試験では「重量型」といわれる多くの科目を指定する傾向にあり，また，教科科目試験以外では「面接と小論文」という現状でもっともポピュラーな指定をしたいと考えているようで，これらは，現状の学部入学でも学士編入学でもメディカルスクールでも変化がないことが判る。

表 11 高校卒業者に対して要求度の高い入試科目パターン  
(教科科目試験以外)

| B1_OTHC | 頻度  | 割合   | 累積<br>頻度 | 累積<br>割合 |
|---------|-----|------|----------|----------|
| 指定パターン  |     |      |          |          |
| 面小      | 806 | 22.5 | 806      | 22.5     |
| 面       | 521 | 14.6 | 1327     | 37.1     |
| 面小 コ    | 364 | 10.2 | 1691     | 47.3     |
| 面小総コ    | 302 | 8.4  | 1993     | 55.7     |
| 面 コ     | 265 | 7.4  | 2258     | 63.1     |
| 面小総     | 255 | 7.1  | 2513     | 70.2     |
| 面 総     | 203 | 5.7  | 2716     | 75.9     |
| コ       | 187 | 5.2  | 2903     | 81.1     |
| <<以下略>> |     |      |          |          |

表 12 学士編入学に対して要求度の高い入試科目パターン  
(高校で学ぶ科目)

| C7_KOUC | 頻度  | 割合   | 累積<br>頻度 | 累積<br>割合 |
|---------|-----|------|----------|----------|
| 指定パターン  |     |      |          |          |
| 国数物化生英  | 457 | 14.3 | 457      | 14.3     |
| 数物化生英   | 321 | 10.0 | 778      | 24.3     |
| 国数 英    | 282 | 8.8  | 1060     | 33.1     |
| 英       | 213 | 6.7  | 1273     | 39.7     |
| 数 英     | 177 | 5.5  | 1450     | 45.3     |
| 国 英     | 173 | 5.4  | 1623     | 50.7     |
| 数 化生英   | 144 | 4.5  | 1767     | 55.2     |
| 生英      | 139 | 4.3  | 1906     | 59.5     |
| 化生英     | 130 | 4.1  | 2036     | 63.6     |
| 数 生英    | 119 | 3.7  | 2155     | 67.3     |
| 国数 生英   | 116 | 3.6  | 2271     | 70.9     |
| 国数 化生英  | 108 | 3.4  | 2379     | 74.3     |
| 国 化生英   | 103 | 3.2  | 2482     | 77.5     |
| 国 生英    | 94  | 2.9  | 2576     | 80.4     |
| <<以下略>> |     |      |          |          |

### 3.9 学士編入学やメディカルスクールにおける出身学部について

医学に限らず種々の専門を習得した者が医学分野に参加することによって，医学がより活性化することを狙った制度として，学士編入学やメディカルスクール制があるととらえることもできる。このような理念に基づけば，広くいろいろな学部を経た学生が医学部に入学してくることが期待される。その意味では，2年前にスタートした法科大学院も同じ理念に基づいていると言える。

表 13 学士編入学に対して要求度の高い入試科目パターン (大学で学ぶ科目)

| C7_DAIC<br>指定パターン | 頻度  | 割合   | 累積<br>頻度 | 累積<br>割合 |
|-------------------|-----|------|----------|----------|
| 生                 | 354 | 11.0 | 354      | 11.0     |
| 化生 数英             | 350 | 10.9 | 704      | 21.8     |
| 生 英               | 283 | 8.8  | 987      | 30.6     |
| 生 英               | 257 | 8.0  | 1244     | 38.6     |
| 生数英               | 235 | 7.3  | 1479     | 45.9     |
| 英                 | 216 | 6.7  | 1695     | 52.6     |
| 化生 英              | 209 | 6.5  | 1904     | 59.0     |
| 生                 | 208 | 6.4  | 2112     | 65.5     |
| 生 数英              | 179 | 5.6  | 2291     | 71.0     |
| 化生 数英             | 175 | 5.4  | 2466     | 76.5     |
| 数英                | 129 | 4.0  | 2595     | 80.5     |
| <<以下略>>           |     |      |          |          |

表 14 学士編入学に対して要求度の高い入試科目パターン (教科科目試験以外)

| C7_OTHC<br>指定パターン | 頻度  | 割合   | 累積<br>頻度 | 累積<br>割合 |
|-------------------|-----|------|----------|----------|
| 面小                | 658 | 18.8 | 658      | 18.8     |
| 面                 | 330 | 9.4  | 988      | 28.2     |
| 面小 動              | 280 | 8.0  | 1268     | 36.2     |
| 面小 コ動             | 226 | 6.5  | 1494     | 42.7     |
| 面小総コ動             | 220 | 6.3  | 1714     | 49.0     |
| 面 動               | 188 | 5.4  | 1902     | 54.3     |
| 面小 コ              | 165 | 4.7  | 2067     | 59.0     |
| 面小総               | 148 | 4.2  | 2215     | 63.3     |
| 面小総 動             | 120 | 3.4  | 2335     | 66.7     |
| 面 コ               | 108 | 3.1  | 2443     | 69.8     |
| コ                 | 101 | 2.9  | 2544     | 72.7     |
| 面 コ動              | 98  | 2.8  | 2642     | 75.5     |
| 面 総               | 95  | 2.7  | 2737     | 78.2     |
| 動                 | 77  | 2.2  | 2814     | 80.4     |
| <<以下略>>           |     |      |          |          |

このような制度に対して医学部教員がどの学部の出身者を受け入れることを希望しているかを見ても、学士編入学もメディカルスクールも同じ傾向となっており、出身学部として「どの学部でも良い」と考える教員が8割程度と非常に多く(図18)、当初の理念に合致した希望になっていると言える。それ以外の選択肢を見てみると、薬学部や理学部といった理系の学部を希望する傾向にある。ただ、臨床系(外科)だけは、工学部と法学部の出身者を希望する傾向が他の専門分野と異なって強いようであり、これは高度医療に付随して導入される医療機器の取り扱いや、医療訴訟といった近年の医療現場が抱える問題と関係しているのかもしれない。

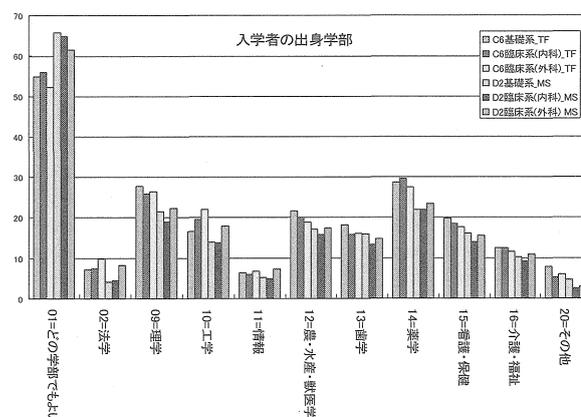


図 18 学士編入学とメディカルスクールに期待される出身学部 (専門分野別)

#### 4 まとめと今後の課題

今回、我々は医学部教育のあり方とその入り口である入試、および、メディカルスクール構想について、医学部教員を対象とした全国調査を行なった。その結果、「医学部の教員」と一括りにすることはできず、その専門分野によって求める学生像や入試に対する考え方が異なっていることが判った。

優れた医師に求められる能力・資質についての解析結果では、必要性の高い24の能力と、専門分野によって必要性に違いの見られる12の能力が明らかになった。これらの能力・資質に注意を払いながら、それらが測定可能な入試を準備することが考えられるであろう。

日本において医学を志す者のほとんどは、高校卒業後に大学入試を経て医学部に入学するが、現行制度の下ではもう1つの入り口として学士編入学も見逃すことはできない。1975年(昭和50年)に大阪大学で初めて導入された学士編入学は、順にその採用大学を拡大し、今年ではほぼ30年が経過した。今回の調査では多くの教員が学士編入学を肯定的にとらえており、この制度が定着したと言えるであろう。ただし、学年定員に対する学士編入学者の割合については、若干名から半数以上までの意見があり、大学の設置形態によっても違いがみられ、また、編入年次についても2年次とするか、3年次とするかは教員の専門分野とも合間って固定的なものはまだないようである。

アメリカ型の医師養成コースであるメディカル

スクールは我が国ではまだ実現されてはいないが、その構想は広く知られており、今回の調査でも6割の教員が何らかの形でメディカルスクールの実現を希望していることが判った。また、年齢層別では年輩層が特に導入に積極的であり、学士編入学に否定的な教員でもメディカルスクールには肯定的な反応を示すのも特徴的であった。

ただ1つ注意しておかなければいけないのは、今回の調査において、学士編入学とメディカルスクール構想に対する調査結果が比較的同じ傾向を示したことである。これらは大学を終了した学生を受け入れる入り口という意味では同じであろうが、両者には明確な違いがあるべきであり、それぞれに特徴があると思われる。しかし、残念ながら明確な違いが見られなかったということは、メディカルスクールは現段階では将来の医学部のあり方に関する構想であり、具体例がないために実態が掴めず、その結果として両者の違いが明確には認識されていない可能性が考えられる。メディカルスクール構想のより具体的な特色の周知にはもう少し時間が必要なのであろう。

メディカルスクールを含めた3つの入り口とも入試科目としては、「国語、数学、英語」を中心にいわゆる「重量型」と言われる多くの科目を課す試験を希望している。これら3科目については医療現場で重要視される能力のうち、表現力・文章力を測るための「国語」、解析力・問題解決能力を測るための「数学」、そして、外国論文の閲覧・発表のための能力を測るための「英語」というように、医学を職としていく上で必要な能力に起因しているのではないかと考えられる。

近年、医学教育にはモデル・コア・カリキュラムが策定され、また、臨床実習開始前の学生を評価するシステムとして、共用試験の導入が予定されている。この試験は知識を評価するパートと技術を評価するパートに別れており、特に後者には客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination, OSCE) と呼ばれる試験が採用されている。OSCE は想定された医療現場での臨床能力を評価するものであり、医療面接を通してのコミュニケーション能力もその評価基準の1つとなっている。今回の調査でも、教科科目試験以外では「面接、小論文」が筆頭に挙っており、「日本語のコミュニケーション能力や文章力を測るた

めの試験」に対して3つのどの入り口用試験としても4割近くの教員が必要と指摘しているが、これはOSCEに象徴されるように、コミュニケーション能力が問われるようになってきた状況の変化と、何らかの関連があるのかもしれない。

一方、米国ACTが実施している科学的推論能力テスト (Science Reasoning Test) や、我が国の法科大学院適性試験は、スキルアナリシスタイプの総合学力試験と呼ばれる。これは教科科目の知識を前提とせず、問題を解くために必要となる情報・素材を試験問題内に提示し、それに基づいて解答させる試験であるが、今回の調査ではこのような総合学力試験の必要性を認めた教員は3割弱に留まっていた。種々の学部出身者を受け入れることを念頭に置いている学士編入学やメディカルスクールにとっては、従来の教科科目試験以外に、このような特定の教科科目に特化しない学力試験も今後は必要になるのではないかと想像される。

また、メディカルスクールに対する入学試験として、全国共通試験についての認識も調査したが、メディカルスクールへの移行に積極的な教員ほど共通試験の必要性を感じていることが判った。

今後は、今回把握した医学教育を取り巻く状況とニーズに照らし合わせて、「学士入学」に対する入学試験を検討しようと考えており、その一環としてモニター調査も計画している。その際には、従来型の教科科目試験のみならず、コミュニケーション能力・読解力・表現力や情報把握力・論理的思考力を測定する総合試験も含めて検討対象とする。また、今回は選択項目の解析を中心に行なったが、自由記述項目の解析も並行して進める必要がある。

いずれにしても、優れた医師を育成することを目指した医学部の改革に対して、入試の立場を中心に多少なりとも貢献できるような情報と方策を提言していく所存である。

#### 謝 辞

本研究は、大学入試センター研究開発部で行なっている共同研究、「総合試験問題の分析的研究」の一部として研究が進められた。この研究チームには、本論文の著者以外に、赤根敦 (関西医科大学)、麻生 武志 (東京医科歯科大学)、岩堀 淳一郎 (高知大学)、内田 千代子 (茨城大学)、川崎勝 (山口大学)、齊藤 宣彦 (聖マリアンナ医科大学)、武田龍

司(富山医科薬科大学)(以上,五十音順)の各先生方に研究分担者として参加いただいております。今回の調査研究や調査結果の解釈等についても議論していただき有益なご助言をいただきました。また、査読者からも示唆に富むコメントをいただき本文に反映させることができました。加えて、調査票の発送や回収作業、資料整理、図表作成等については、飯田奈津子、恒任 あり、尾崎佳代子(以上、大学入試センター研究開発部事務補佐員)の各氏にご協力いただきました。これらの方々はこの場を借りて謝意を表わしておく。

### 参考文献

- [1] 荒井克弘編(2000), 学生は高校で何を学んでくのか, 大学入試センター研究開発部.
- [2] 荒牧草平・山村滋(2002), 多様化政策下における普通科高校教育課程の実証的研究, 大学入試センター研究紀要, No31, 11-27.
- [3] Association of American Medical College (ed) (1984), Physicians for the Twenty-First Century, Report of the Project Panel on the general Professional Education of the Physician and College Preparation for Medicine.
- [4] Australian Council for Educational Research (ACER) (2003), GAMSAT (Graduate Australian Medical School Admission Test), Information Booklet 2003.
- [5] 学士を対象とする医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議(2001), 今後の学士を対象とする医学・歯学教育の在り方について. ([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/13/03/010333.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/13/03/010333.htm)).
- [6] 平野光昭・渋谷昌三(1996), 高校調査書に記載された成績および諸活動と医師国家試験の合格の関係, 大学入試研究ジャーナル, 6, 76-83.
- [7] 平野光昭他(1997), 推薦選抜における各評価の妥当性と信頼性, 大学入試研究ジャーナル, 7, 62-72.
- [8] 藤井光昭・柳井晴夫・荒井克弘編著(2002), 大学入学試験における総合試験の国際比較—わが国の入試改善に向けて, 多賀出版.
- [9] 医学における教育プログラム研究・開発事業委員会(2001), 医学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—. ([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/13/03/010331.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/13/03/010331.htm)).
- [10] 石井秀宗・椎名久美子・柳井晴夫(2003a), 学生の学習活動と意欲に関する調査研究(1), 医学のあゆみ, 205 巻 12 号, 934-937.
- [11] 石井秀宗・椎名久美子・柳井晴夫(2003b), 学生の学習活動と意欲に関する調査研究(2), 医学のあゆみ, 205 巻 13 号, 989-991.
- [12] 石井秀宗・大澤公一・岩坪秀一(2004), オーストラリアにおけるメディカルスクール入学者選抜に関する調査報告. 大学入試センター研究開発部リサーチノート. RN-04-10.
- [13] 石岡恒憲(2002), 第5章 アメリカ医科大学入学者選抜テスト, 藤井光昭他編著大学入試における総合試験の国際比較, わが国の入試改善に向けて, 多賀出版, 131-170.
- [14] 岩堀 淳一郎・上田 芳文(1999), 高知医科大学適性検査問題の分析, 柳井晴夫・前川眞一編著「大学入試データの解析」, 現代数学社.
- [15] Kachur, E.K. and Newble, D., 伴 信太郎翻訳監修(2001), 独自の道を歩みだしたオーストラリアの医学教育, 動き出した医学教育改革——良き臨床医を育てるために——, ライフサイエンス出版, 123-158.
- [16] Lee Moo-Sang (2003), Development of MEET, 大学入試センター講演資料, 2003 年 7 月.
- [17] 中川米造(1977), よい医師像, 「医学教育」第8巻2号, 97-100.
- [18] 額田 繁・高垣 東一郎(1977), 学業成績の追跡調査, 医学教育, 8, 2, 71-79.
- [19] Price, P.B. et al. (1971), Attributes of good practicing physicians, J. Med. Ed, 46, 229-135.
- [20] Sabalis R. F 著, 椎名久美子・石井秀宗・柳井晴夫・奈良信雄・齋藤宣彦訳(2004), 日本の医学教育における変化と挑戦, 医学教育, 35 巻 4 号, 221-228.
- [19] 坂口 周吉(1992), 医科大学卒業後活動状況と入試, および学業成績との関連について, 大学入試研究ジャーナル, 2, 77-81.
- [20] 司法制度改革審議会(2001), 司法制度改革審議会意見書.
- [21] 椎名久美子・柳井晴夫・松岡雄治・西園昌久・佐藤淑子(1997), 福岡大学医学部における入試データの解析, 大学入試センター研究紀要, No27, 19-34.
- [22] 椎名久美子・柳井晴夫(1998), 付録 B 総合試験に関する調査結果, 総合試験に関する研究会発

- 表論文内容のまとめ, 大学の各専門分野への適性の評価を目的とする総合試験のあり方に関する共同研究中間報告書, 大学入試センター研究開発部, B1-B32.
- [23] 鈴木庄亮他 (1988), 医学部入学者の高校・医進・専門・国家試験における成績間の相互関連, 医学教育, 19 巻, 33-40.
- [24] 豊田秀樹・柳井晴夫・美原恒・井上勝平 (1994), 宮崎医科大学における入試改革の効果について——学部に対する適応と資質の関連から——, 大学入試センター研究開発部紀要, N023.
- [25] 植田規史・内海爽・平直樹 (1996), 愛媛大学医学部における小論文入試への取り組みとその成果について, 大学入試センター研究開発部紀要, No25.
- [26] 山村滋 (2002), 第 8 章オーストリア・クイーンズランドコア・スキルズ・テスト, 藤井光昭他編著大学入試における総合試験の国際比較, わが国の入試改善に向けて, 多賀出版, 217-240.
- [27] 柳井晴夫・前川眞一・鈴木規夫・石塚智一・豊田秀樹 (1993), 大学の各専門分野の進学適性に関する調査研究報告書, 大学入試センター研究開発部.
- [28] 柳井晴夫・鈴木規夫 (2002), 私立大学総合試験に関する調査結果, 大学入学者選抜資料としての総合試験の開発的研究, 科学研究費補助金研究成果報告書 (研究代表者: 柳井晴夫), 77-98.
- [29] 柳井晴夫・椎名久美子・石井秀宗・野澤雄樹 (2003), 大学生の学習意欲に関する調査研究, 大学入試センター研究紀要, No32, 57-126.
- [30] 全国医学部長病院長会議 (2003), 平成 15 年度医学教育カリキュラムの現状.

付録 A1. 調査票と単純集計

調査項目

Part A : 「優れた医師を育成すること」を念頭に置いて、以下の質問にお答え下さい。

A1. 将来医師になることを志して医学部・医科大学の医学科(以下、医学部と表記)を受験する志願者について、どのような能力・資質を入学試験(筆記試験、面接試験等を含む)において測定することが必要と考えておられますか。以下に挙げた能力・資質についてそれぞれを4段階で評定して下さい。該当するマスにマル印を記入ください。(ただし、この質問は下記の能力・資質を測定できるとして、回答ください)。

(高: かなり測る必要あり、中: ある程度測る必要あり、低: 測る必要はあまりなし、無: 測る必要なし)

| 能力・資質  | 必要性  |      |      |     |
|--|------|------|------|-----|
|  | 高    | 中    | 低    | 無   |
| 1. [読解力]<br>書物を読んで内容を正しく理解できること                  | 80.4 | 18.6 | 0.8  | 0.2 |
| 2. [文章要約]<br>文章の要約をすること                          | 59.6 | 37.3 | 2.7  | 0.2 |
| 3. [文法使用]<br>文法にあつた送りがな、句読点、語彙を正しく使えること          | 23.0 | 56.7 | 19.1 | 1.1 |
| 4. [文章作成]<br>まとまりのある長い文章を書くこと                    | 29.6 | 53.0 | 16.2 | 1.2 |
| 5. [文章表現力]<br>自分の考えを、文章を用いて正確に表現することができること       | 69.9 | 28.5 | 1.5  | 0.1 |
| 6. [自己表現力]<br>自分の考えを他の人にわかりやすく話すことができること         | 82.2 | 16.7 | 1.0  | 0.1 |
| 7. [プレゼン]<br>プレゼンテーション(発表・アレンジ・ディスプレイ)すること       | 50.0 | 41.8 | 7.1  | 1.0 |
| 8. [数理能力]<br>数字・記号・式を扱うことができること                  | 22.2 | 57.1 | 19.4 | 1.3 |
| 9. [数量的予測]<br>数量的な大きさを予測すること                     | 26.6 | 55.7 | 16.7 | 1.0 |
| 10. [公式使用]<br>基本的な公式や事項等を必要に応じて活用できること           | 23.5 | 55.2 | 19.7 | 1.5 |
| 11. [図表の読み]<br>表・図・地図・グラフを読むこと                   | 42.8 | 48.9 | 7.8  | 0.5 |
| 12. [図表作成]<br>表やグラフをかくこと                         | 27.9 | 54.8 | 15.9 | 1.4 |
| 13. [スケッチ]<br>スケッチすること・描くこと                      | 16.0 | 53.1 | 26.9 | 4.0 |
| 14. [データの記録]<br>データの記録・メモができること                  | 39.2 | 47.3 | 11.5 | 2.0 |
| 15. [パソコン操作]<br>パソコンなどの操作ができること                  | 27.0 | 49.1 | 18.0 | 5.8 |
| 16. [機械技術]<br>新しい機械の操作を学んだり新しい技術を覚えることができること     | 29.3 | 53.1 | 14.5 | 3.1 |
| 17. [情報整理]<br>必要な情報を探し出し、整理すること                  | 59.3 | 35.9 | 4.3  | 0.5 |
| 18. [客観的評価]<br>物事を比較して客観的に評価できること                | 74.5 | 23.8 | 1.5  | 0.1 |
| 19. [結論の導出]<br>与えられた情報や仮定から結論を導くこと               | 67.4 | 30.3 | 2.1  | 0.1 |
| 20. [多元的な価値判断]<br>価値を一つの物差しではなく、いくつかの物差しで判断できること | 71.8 | 26.0 | 2.0  | 0.1 |
| 21. [論理的思考力]<br>物事を筋道立てて論理的に考察することができること         | 79.9 | 19.4 | 0.7  | 0.0 |
| 22. [判断力]<br>細かいことにはとられずに、全体的な判断ができること           | 64.8 | 32.5 | 2.5  | 0.2 |

| 能力・資質   | 必要性  |      |      |      |
|---|------|------|------|------|
|   | 高    | 中    | 低    | 無    |
| 23. [根拠ある批判]<br>他人の意見・行動に根拠ある批判をすること          | 41.7 | 51.0 | 6.8  | 0.5  |
| 24. [アイデア方策]<br>自分のアイデアを試すための方策を講じること         | 34.1 | 53.8 | 11.4 | 0.8  |
| 25. [仮説生成]<br>仮説・仮定をたてること                     | 39.0 | 50.4 | 10.0 | 0.6  |
| 26. [発想力]<br>確立されている知見に捉われずに自分の頭で考えることができること  | 53.4 | 40.9 | 5.4  | 0.3  |
| 27. [探究心]<br>自分の知らないことを納得できるまで追求できること         | 47.6 | 43.6 | 8.2  | 0.6  |
| 28. [社会問題への関心]<br>社会問題に関心があること                | 35.6 | 52.6 | 10.9 | 0.9  |
| 29. [自然環境への関心]<br>人間と自然との関わり合いに関心があること        | 31.9 | 52.2 | 14.7 | 1.2  |
| 30. [空間図形への関心]<br>空間図形のパターンや規則性に関心があること       | 9.5  | 44.9 | 38.9 | 6.6  |
| 31. [歴史への関心]<br>過去の人々の文化や行動に関心があること           | 10.5 | 47.2 | 36.7 | 5.6  |
| 32. [人間心理への関心]<br>人の心のメカニズムに関心があること           | 43.3 | 47.2 | 8.5  | 1.0  |
| 33. [生物への関心]<br>生物のしくみや生態に関心があること             | 48.8 | 43.5 | 7.1  | 0.6  |
| 34. [語学への関心]<br>語学力を身につけるよう積極的に努力していること       | 34.4 | 52.3 | 11.6 | 1.7  |
| 35. [運動への関心]<br>スポーツをしたり観たりすることに関心があること       | 4.8  | 36.2 | 44.0 | 15.0 |
| 36. [美術への関心]<br>美しいものを創造することに関心があること          | 7.1  | 38.1 | 40.7 | 14.1 |
| 37. [音楽への関心]<br>音楽的なセンスを磨くことに関心があること          | 3.5  | 28.9 | 47.5 | 20.0 |
| 38. [知識・教養]<br>幅広い知識や教養を身につけようとしていること         | 34.7 | 51.1 | 12.6 | 1.5  |
| 39. [興味・関心]<br>いろいろなことに興味・関心を持ち、積極的に行動すること    | 31.7 | 51.5 | 14.6 | 2.2  |
| 40. [協調性]<br>他人と協力しながら研究や作業を進めることができること       | 70.1 | 27.3 | 2.3  | 0.2  |
| 41. [コミュニケーション]<br>人とのコミュニケーションが円滑にできること      | 80.4 | 18.5 | 1.0  | 0.1  |
| 42. [共感すること]<br>人の気持ちに共感すること                  | 66.5 | 29.0 | 4.0  | 0.4  |
| 43. [人間性・良識]<br>人間性・良識を身につけようとしていること          | 73.1 | 24.5 | 2.2  | 0.2  |
| 44. [福祉的態度]<br>奉仕的精神を持って、人間や社会に働きかけることができること  | 57.8 | 36.1 | 5.5  | 0.5  |
| 45. [謙虚・真面目]<br>自分の欠点を自覚し、常に改善の努力を続けることができること | 59.2 | 36.3 | 4.1  | 0.3  |
| 46. [持続力]<br>地道な勉強を積み重ねることができること              | 56.6 | 36.7 | 5.9  | 0.8  |
| 47. [生活の規則性]<br>規則正しい日常生活を送ることができること          | 30.4 | 46.5 | 18.5 | 4.5  |

A2. 医学部への入学者に期待する資質や性格を、具体的に書いてください。[自由記述]

(ここにお書き下さい)

58.3

Part B : ご所属の大学での現状とは独立に、高校卒業後の医学部への入学についておたずねします。

**B1.** 高校卒業者の入学試験において課すべきと思われるものは何でしょうか? 以下の項目から必要と思われるものの番号にマル印を付けてください。[複数選択可]

1. 大学入試センター試験 [複数選択可]

- |      |                         |      |                         |      |             |
|------|-------------------------|------|-------------------------|------|-------------|
| 79.7 | 1-01. 現代文               | 13.7 | 1-02. 古文・漢文             |      |             |
| 17.7 | 1-03. 世界史               | 16.2 | 1-04. 日本史               | 6.3  | 1-05. 地理    |
| 23.5 | 1-06. 現代社会              | 27.4 | 1-07. 倫理                | 12.6 | 1-08. 政治・経済 |
| 86.0 | 1-09. 数学                | 53.5 | 1-10. 物理                | 70.1 | 1-11. 化学    |
| 73.6 | 1-12. 生物                | 1.9  | 1-13. 地学                |      |             |
| 96.0 | 1-14. 英語                | 1.4  | 1-15. 英語以外の外国語( _____ ) |      |             |
| 18.6 | 1-16. 社会科6科目から任意の1科目を選択 |      |                         |      |             |
| 19.4 | 1-17. 社会科6科目から任意の2科目を選択 |      |                         |      |             |
| 2.1  | 1-18. 理科4科目から任意の1科目を選択  |      |                         |      |             |
| 22.0 | 1-19. 理科4科目から任意の2科目を選択  |      |                         |      |             |
| 10.0 | 1-20. 理科4科目から任意の3科目を選択  |      |                         |      |             |
| 2.4  | 1-21. その他( _____ )      |      |                         |      |             |

2. 各大学が実施する科目別試験(個別学力試験) [複数選択可]

- |      |   |      |                         |      |             |
|------|---|------|-------------------------|------|-------------|
| 44.5 | 2-01. 現代文                                       | 3.0  | 2-02. 古文・漢文             |      |             |
| 4.1  | 2-03. 世界史                                       | 4.1  | 2-04. 日本史               | 1.2  | 2-05. 地理    |
| 6.6  | 2-06. 現代社会                                      | 11.3 | 2-07. 倫理                | 3.2  | 2-08. 政治・経済 |
| 68.0 | 2-09. 数学  | 34.3 | 2-10. 物理                | 48.1 | 2-11. 化学    |
| 54.3 | 2-12. 生物  | 0.9  | 2-13. 地学                |      |             |
| 85.5 | 2-14. 英語  | 0.9  | 2-15. 英語以外の外国語( _____ ) |      |             |
| 8.4  | 2-16. 社会科6科目から任意の1科目を選択                         |      |                         |      |             |
| 5.5  | 2-17. 社会科6科目から任意の2科目を選択                         |      |                         |      |             |
| 3.6  | 2-18. 理科4科目から任意の1科目を選択                          |      |                         |      |             |
| 21.1 | 2-19. 理科4科目から任意の2科目を選択                          |      |                         |      |             |
| 5.5  | 2-20. 理科4科目から任意の3科目を選択                          |      |                         |      |             |
| 2.5  | 2-21. その他( _____ )                              |      |                         |      |             |
| 71.9 | 3. 面接   |      |                         |      |             |
| 50.8 | 4. 小論文  |      |                         |      |             |
| 31.1 | 5. 教科に直接関係しない総合学力試験(Skill Analysis タイプの検査。(注4)) |      |                         |      |             |
| 24.2 | 6. 医学科向けの教科複合型総合試験(生物・化学・物理等を混合させた問題を解答させる)     |      |                         |      |             |
| 8.2  | 7. 各種の適性を測るための試験(具体的に記入ください: _____)             |      |                         |      |             |
| 37.5 | 8. 日本語のコミュニケーション能力や文章力を測るための試験                  |      |                         |      |             |
| 2.8  | 9. その他( _____ )                                 |      |                         |      |             |

※ 注4) 教科科目の知識を前提とせず、問題を解くために必要となる情報・素材を提示し、それに基づいて、解答させる言語推理・読解力、分析、数的推理力等を測定する検査。

Part C : 現行の医学部の学士編入学制度についておたずねします。実施されていない大学の先生方もお考えをお聞かせ下さい。

C1. 医学部に学士編入学生を受け入れることについてどのようにお考えですか。[ひとつ選択]

- 11.2 1. 反対
- 24.7 2. どちらともいえない
- 64.1 3. 賛成

C2. 大学ごとの学士編入学の定員についてどのようにお考えですか。[ひとつ選択]

- 9.9 1. いっさい行わないのがよい
- 26.0 2. 若干名程度にとどめるのがよい
- 26.6 3. 定員の10分の1程度がよい
- 16.8 4. 定員の4分の1程度にすべきである
- 6.7 5. 定員の半数程度にすべきである
- 5.5 6. 定員の半数以上にすべきである
- 8.0 7. その他( \_\_\_\_\_ )

C3. 上記(C2)のようにお答えになった理由をお書き下さい。[自由記述]

(ここにお書き下さい)

70.3

C4. 全体での学士編入学定員についてどのようにお考えですか。[ひとつ選択]

- 76.6 1. 大学ごとの自由裁量でよい
- 6.4 2. 学士編入学だけの大学を設け、集中するのがよい
- 4.6 3. 学士編入学をかなりの人数認める大学を作り、そこに学士編入学者を集中させる
- 9.3 4. すべての大学で一律であるのがよい
- 2.9 5. その他( \_\_\_\_\_ )

C5. 学士編入学者を何年次に入れるのが適切とお考えですか。[ひとつ選択]

- 31.4 1. 2年次
- 15.8 2. 2年次秋
- 26.9 3. 3年次
- 17.9 4. 入学者により大学側が2、3年次を指定する
- 7.6 5. その他( \_\_\_\_\_ )

## C6. 学士編入者としてどのような学部卒業者が適当とお考えですか。[複数選択可]

- 53.9 1. どの学部でもよい
- |      |                  |      |              |      |           |
|------|------------------|------|--------------|------|-----------|
| 8.1  | 2. 法学            | 2.8  | 3. 経済・商学     | 2.5  | 4. 文学     |
| 4.2  | 5. 社会学           | 2.4  | 6. 外国語学      | 4.6  | 7. 教育学    |
| 3.0  | 8. 教員養成系         | 26.9 | 9. 理学        | 19.7 | 10. 工学    |
| 6.4  | 11. 情報           | 20.2 | 12. 農・水産・獣医学 | 16.8 | 13. 歯学    |
| 28.5 | 14. 薬学           | 18.9 | 15. 看護・保健    | 12.2 | 16. 介護・福祉 |
| 1.9  | 17. 家政・生活        | 0.9  | 18. 芸術       | 2.1  | 19. 体育    |
| 6.5  | 20. その他( _____ ) |      |              |      |           |

## C7. 学士編入の入学試験において課すべきと思われるものは何でしょうか? 以下の項目から必要と思われるものの番号にマル印を付けてください。[複数選択可]

## 1. 高校で学ぶ科目別試験

- |      |                         |      |                         |      |             |
|------|-------------------------|------|-------------------------|------|-------------|
| 42.4 | 1-01. 現代文               | 3.0  | 1-02. 古文・漢文             |      |             |
| 4.4  | 1-03. 世界史               | 3.5  | 1-04. 日本史               | 1.5  | 1-05. 地理    |
| 7.2  | 1-06. 現代社会              | 11.9 | 1-07. 倫理                | 3.7  | 1-08. 政治・経済 |
| 52.6 | 1-09. 数学                | 30.2 | 1-10. 物理                | 43.0 | 1-11. 化学    |
| 53.5 | 1-12. 生物                | 0.9  | 1-13. 地学                |      |             |
| 75.1 | 1-14. 英語                | 1.2  | 1-15. 英語以外の外国語( _____ ) |      |             |
| 8.1  | 1-16. 社会科6科目から任意の1科目を選択 |      |                         |      |             |
| 7.5  | 1-17. 社会科6科目から任意の2科目を選択 |      |                         |      |             |
| 3.4  | 1-18. 理科4科目から任意の1科目を選択  |      |                         |      |             |
| 15.3 | 1-19. 理科4科目から任意の2科目を選択  |      |                         |      |             |
| 5.7  | 1-20. 理科4科目から任意の3科目を選択  |      |                         |      |             |
| 2.4  | 1-21. その他( _____ )      |      |                         |      |             |

## 2. 大学で学ぶ科目別試験

- |      |                          |  |  |  |  |
|------|--------------------------|--|--|--|--|
| 23.5 | 2-01. 理系一般教養レベルの物理       |  |  |  |  |
| 31.7 | 2-02. 理系一般教養レベルの化学       |  |  |  |  |
| 46.0 | 2-03. 理系一般教養レベルの生命科学(生物) |  |  |  |  |
| 13.6 | 2-04. 生物学系学部卒業レベルの生命科学   |  |  |  |  |
| 34.6 | 2-05. 医学科2年次修了レベルの生命科学   |  |  |  |  |
| 31.4 | 2-06. 大学教養レベルの数学         |  |  |  |  |
| 60.2 | 2-07. 大学教養レベルの英語         |  |  |  |  |
| 2.7  | 2-08. その他( _____ )       |  |  |  |  |

## 3. 面接

## 4. 小論文

- |      |   |  |  |  |  |
|------|---|--|--|--|--|
| 27.5 | 5. 教科に直接関係しない総合学力試験(Skill Analysis タイプの検査。(注5)) |  |  |  |  |
| 24.5 | 6. 医学科向けの教科複合型総合試験(生物・化学・物理等を混合させた問題を解答させる)     |  |  |  |  |
| 7.0  | 7. 各種の適性を測るための試験(具体的に記入ください: _____)             |  |  |  |  |
| 33.5 | 8. 日本語のコミュニケーション能力や文章力を測るための試験                  |  |  |  |  |
| 39.5 | 9. 大学卒業後の経歴と医学部への入学動機等を記した作文(自己推薦書)             |  |  |  |  |
| 2.7  | 10. その他( _____ )                                |  |  |  |  |

※ 注5) 教科科目の知識を前提とせず、問題を解くために必要となる情報・素材を提示し、それに基づいて、解答させる言語推理・読解力、分析、数的推理力等を測定する検査。

C8. 学士編入学者が大学時代に履修することで、その後の専門教育の学習に役立つと思われる教科・科目をお書き下さい。[自由記述]

[例]量子力学、国文学、電気工学

(ここにお書き下さい)

53.5

C9. 学士編入してくる学生にどのような資質を期待しますか。[自由記述]

(ここにお書き下さい)

58.7

## C10. 学士編入学制度のメリットとデメリットを列挙してください。[自由記述]

(ここにお書き下さい)

[メリット]

55.4

[デメリット]

51.5

Part D: メディカルスクール制(4年制大学卒業後の、4年制医学部への入学制度)についておたずねします。

D1. 医学部をアメリカや他の諸国(オーストラリア、イギリスの一部の医科大学)のように4年制大学学部卒業者のみを受け入れるメディカルスクールに変更することに対してどのようにお考えですか。[ひとつ選択]

- 16.0 1. 現行の学部入学の(高校卒業後の入学)制度で十分である
- 18.3 2. 現行の学士編入学の制度で十分である
- 16.2 3. 一部の大学にメディカルスクールを併設すべきである
- 17.9 4. 一部の大学をメディカルスクールに切り替えるべきである
- 25.9 5. 全面的にメディカルスクールに変更すべきである
- 4.6 6. その他( \_\_\_\_\_ )

D2. 上記において大学卒業者を受け入れる場合どのような学部出身者を受け入れるべきとお考えですか。[複数選択可]

- 63.6 1. どの学部でもよい
- 5.7 2. 法学                      1.9 3. 経済・商学                      1.9 4. 文学
- 3.0 5. 社会学                      1.9 6. 外国語学                      3.2 7. 教育学
- 2.4 8. 教員養成系                      21.1 9. 理学                      15.5 10. 工学
- 6.0 11. 情報                      16.8 12. 農・水産・獣医学                      14.7 13. 歯学
- 22.4 14. 薬学                      15.4 15. 看護・保健                      10.2 16. 介護・福祉
- 1.6 17. 家政・生活                      0.5 18. 芸術                      1.4 19. 体育
- 3.4 20. その他( \_\_\_\_\_ )

D3. メディカルスクールへの入学試験において課すべきと思われるものは何でしょうか? 以下の項目から必要と思われるものの番号にマル印を付けてください。[複数選択可]

1. 高校レベルの科目別試験

- |      |                         |      |                         |      |             |
|------|-------------------------|------|-------------------------|------|-------------|
| 41.9 | 1-01. 現代文               | 3.7  | 1-02. 古文・漢文             |      |             |
| 5.2  | 1-03. 世界史               | 4.6  | 1-04. 日本史               | 1.7  | 1-05. 地理    |
| 8.4  | 1-06. 現代社会              | 12.7 | 1-07. 倫理                | 4.4  | 1-08. 政治・経済 |
| 50.7 | 1-09. 数学                | 30.0 | 1-10. 物理                | 41.1 | 1-11. 化学    |
| 48.8 | 1-12. 生物                | 1.1  | 1-13. 地学                |      |             |
| 67.7 | 1-14. 英語                | 1.2  | 1-15. 英語以外の外国語( _____ ) |      |             |
| 8.0  | 1-16. 社会科6科目から任意の1科目を選択 |      |                         |      |             |
| 8.8  | 1-17. 社会科6科目から任意の2科目を選択 |      |                         |      |             |
| 2.7  | 1-18. 理科4科目から任意の1科目を選択  |      |                         |      |             |
| 14.2 | 1-19. 理科4科目から任意の2科目を選択  |      |                         |      |             |
| 6.6  | 1-20. 理科4科目から任意の3科目を選択  |      |                         |      |             |
| 1.6  | 1-21. その他( _____ )      |      |                         |      |             |

2. 大学レベルの科目別試験

- |      |   |  |  |  |  |
|------|---|--|--|--|--|
| 24.2 | 2-01. 理系一般教養レベルの物理                                |  |  |  |  |
| 31.5 | 2-02. 理系一般教養レベルの化学                                |  |  |  |  |
| 42.9 | 2-03. 理系一般教養レベルの生命科学(生物)                          |  |  |  |  |
| 18.4 | 2-04. 生物学系学部卒業レベルの生命科学                            |  |  |  |  |
| 31.8 | 2-05. 医学科2年次修了レベルの生命科学                            |  |  |  |  |
| 34.6 | 2-06. 大学教養レベルの数学                                  |  |  |  |  |
| 62.0 | 2-07. 大学教養レベルの英語                                  |  |  |  |  |
| 2.3  | 2-08. その他( _____ )                                |  |  |  |  |
| 74.2 | 3. 面接   |  |  |  |  |
| 56.1 | 4. 小論文  |  |  |  |  |
| 29.5 | 5. 教科に直接関係しない総合学力試験(Skill Analysis タイプの検査。(注6))   |  |  |  |  |
| 26.4 | 6. 医学科向けの教科複合型総合試験(生物・化学・物理等を混合させた問題を解答させる)       |  |  |  |  |
| 7.8  | 7. 各種の適性を測るための試験(具体的に記入ください: _____ )              |  |  |  |  |
| 36.9 | 8. 日本語のコミュニケーション能力や文章力を測るための試験                    |  |  |  |  |
| 37.7 | 9. 大学卒業後の経歴(研究歴を含む)とメディカルスクールへの入学動機等を記した作文(自己推薦書) |  |  |  |  |
| 2.9  | 10. その他( _____ )                                  |  |  |  |  |

※ 注6) 教科科目の知識を前提とせず、問題を解くために必要となる情報・素材を提示し、それに基づいて、解答させる言語推理・読解力、分析、数的推理力等を測定する検査。

D4. メディカルスクールへの入学試験において、全国共通試験(米国MCATのような)を課すべき必要性についてどのようにお考えですか? [ひとつ選択]

- |      |              |
|------|--------------|
| 19.6 | 1. 必要ない      |
| 33.1 | 2. どちらともいえない |
| 47.3 | 3. 必要がある     |

D5. 上記(D4)のようにお答えになった理由をお書きください。[自由記述]

(ここにお書き下さい)

56.7

D6. メディカルスクール入学者が大学時代に履修することで、その後の専門教育の学習に役立つと思われる教科・科目をお書き下さい。[自由記述]

[例]量子力学、国文学、電気工学

(ここにお書き下さい)

47.7

D7. メディカルスクールに入学してくる学生にどのような資質を期待しますか。[自由記述]

(ここにお書き下さい)

50.8

D8. メディカルスクールについて、考えられるメリットとデメリットを列挙してください。[自由記述]

(ここにお書き下さい)

[メリット]

49.3

[デメリット]

43.3

Part Z : フェイスシート

以下の項目について、あてはまるものの番号にマル印を付けてください。

Z1. 性別をお答えください。

- 93.9 1. 男
- 6.1 2. 女

Z2. 年齢をお答えください。

- 0.1 1. 20歳代
- 6.6 2. 30歳代
- 51.8 3. 40歳代
- 31.9 4. 50歳代
- 9.5 5. 60歳以上

Z3. 所属大学をお答えください。

- 49.7 1. 国立大学
- 8.4 2. 公立大学
- 41.8 3. 私立大学

Z4. 医学部における専門分野(一つ)をお答えください。

- 22.7 1. 基礎医学
  - 1.4 2. 境界医学
  - 4.7 3. 社会医学
  - 33.1 4. 臨床医学(内科系)
  - 33.9 5. 臨床医学(外科系)
  - 2.3 6. 教養的教育
  - 1.4 7. その他( \_\_\_\_\_ )
- Z5 にお進みください
- 終了です

Z5. 前項で 1~5 にマークをされた場合、細分化された専門分野もお答えください。なお、カッコ内の数字は科学研究費細目です。参考までに併記しておきます。複数の専門に所属する場合でも、最もご活躍されている一つの分野を選んでください。[ひとつ選択]

基礎医学

- |                                |                            |
|--------------------------------|----------------------------|
| 134 01. 解剖学一般(含組織学・発生学) (6901) | 113 02. 生理学一般 (6902)       |
| 12 03. 環境生理学(含体力医学・栄養生理学)      | 73 04. 薬理学一般 (6904)        |
| 146 05. 医化学一般 (6905) (6903)    | 47 06. 病態医化学 (6906)        |
| 21 07. 人類遺伝学 (6907)            | 97 08. 人体病理学 (6908)        |
| 59 09. 実験病理学 (6909)            | 31 10. 寄生虫学(含衛生動物学) (6910) |
| 38 11. 細菌学(含真菌学) (6911)        | 34 12. ウイルス学 (6912)        |
| 59 13. 免疫学 (6913)              |                            |

境界医学

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 15 14. 医療社会学 (7001) | 16 15. 応用薬理学 (7002) |
| 29 16. 病態検査学 (7003) |                     |

## 社会医学

46 17. 衛生学 (7101)

46 19. 法医学 (7103)

100 18. 公衆衛生学・健康科学 (7102)

## 内科系臨床医学

72 20. 内科学一般(含心身医学) (7201)

137 22. 循環器内科学 (7203)

59 24. 腎臓内科学 (7205)

38 26. 代謝学 (7207)

84 28. 血液内科学 (7209)

171 30. 小児科学 (7211)

95 32. 皮膚科学 (7213)

143 34. 放射線科学 (7215)

114 21. 消化器内科学 (7202)

86 23. 呼吸器内科学 (7204)

89 25. 神経内科学 (7206)

34 27. 内分泌学 (7208)

40 29. 膠原病・アレルギー・感染症内科学 (7210)

6 31. 胎児・新生児医学 (7212)

79 33. 精神神経科学 (7214)

## 外科系臨床医学

56 35. 外科学一般 (7301)

101 37. 胸部外科学 (7303)

143 39. 整形外科学 (7305)

116 41. 泌尿器科学 (7307)

96 43. 耳鼻咽喉科学 (7309)

23 45. 小児外科学 (7311)

51 47. 救急医学 (7313)

149 36. 消化器外科学 (7302)

111 38. 脳神経外科学 (7304)

145 40. 麻酔・蘇生学 (7306)

138 42. 産婦人科学 (7308)

81 44. 眼科学 (7310)

58 46. 形成外科学 (7312)

## その他

2 48. 医学概論

13 49. 医学教育学

102 50. 上記以外(\_\_\_\_\_)

お忙しいところ、調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。

# An investigation into admission systems in medical departments of universities in Japan.

HAYASHI Atsuhiko\*  
ISHII Hidetoki\*  
ITO Kei\*  
SHIINA Kumiko\*\*  
IWATSUBO Shuichi\*  
YANAI Haruo\*

## Abstract

We conducted a nationwide survey to teachers belonging to departments of medicine in order to investigate how they consider about innovations of medical schools in Japan, and what kinds of subjects and selection criterion are necessary to employ as candidates into faculty of medicine both from high school and from university graduates in various fields, and those into medical school.

Consequently, it turned out that the views over both innovations of medical school and subjects as the entrance examination largely depend upon the major fields of the teachers. Moreover, it was clearly found that 24 capabilities and 12 skills required to become skilled medical doctors showed considerable differences among the different fields they belongs to.

With regards to the medical school design which will cause a big change in medical education in Japan, it is widely known, and thus it also turned out that 60 percent of the teachers wish realization of a medical school in a certain form. Moreover, teachers of high age groups who are against introduction of the current system of accepting graduate students from 4-year courses other than medical departments, are comparatively eager to accept applicants graduated from 4-years courses other than medical schools as the candidates for medical schools.

It was found that teachers of medical departments wish to employ the examination which imposes many subjects focusing on measuring achievement abilities such as Japanese language, mathematics, and English and, in addition, they wish to employ "an interview and a short article." In addition, it is important to notify here that about 40 percent of teachers in this study emphasized the necessity employing an examination for measuring Japanese communications skills, while on the other hand about less than 30 percent of teachers accepted the necessity for a comprehensive skill analysis type achievement test like MCAT used in U.S.A.

From now on, a study is encouraged to investigate the details of the entrance examination in views of not only the timing of introduction of medical schools

---

\* Department of Basic Educational Assessment, Research Division, National Center for University Entrance Examinations.

\*\* Department of Experimental Studies on Integrated Abilities, Research Division, National Center for University Entrance Examinations.

in Japan but also in view of real needs of medical schools as a method reconstructing the medical education system in Japan. In that case, we take it for granted that we will include not only school subjects examinations but also we will include examinations measuring communication ability and comprehensive ability as well.

**Key words:** medical school, communication ability, comprehensive ability, skill analysis, MCAT, interview, short article.